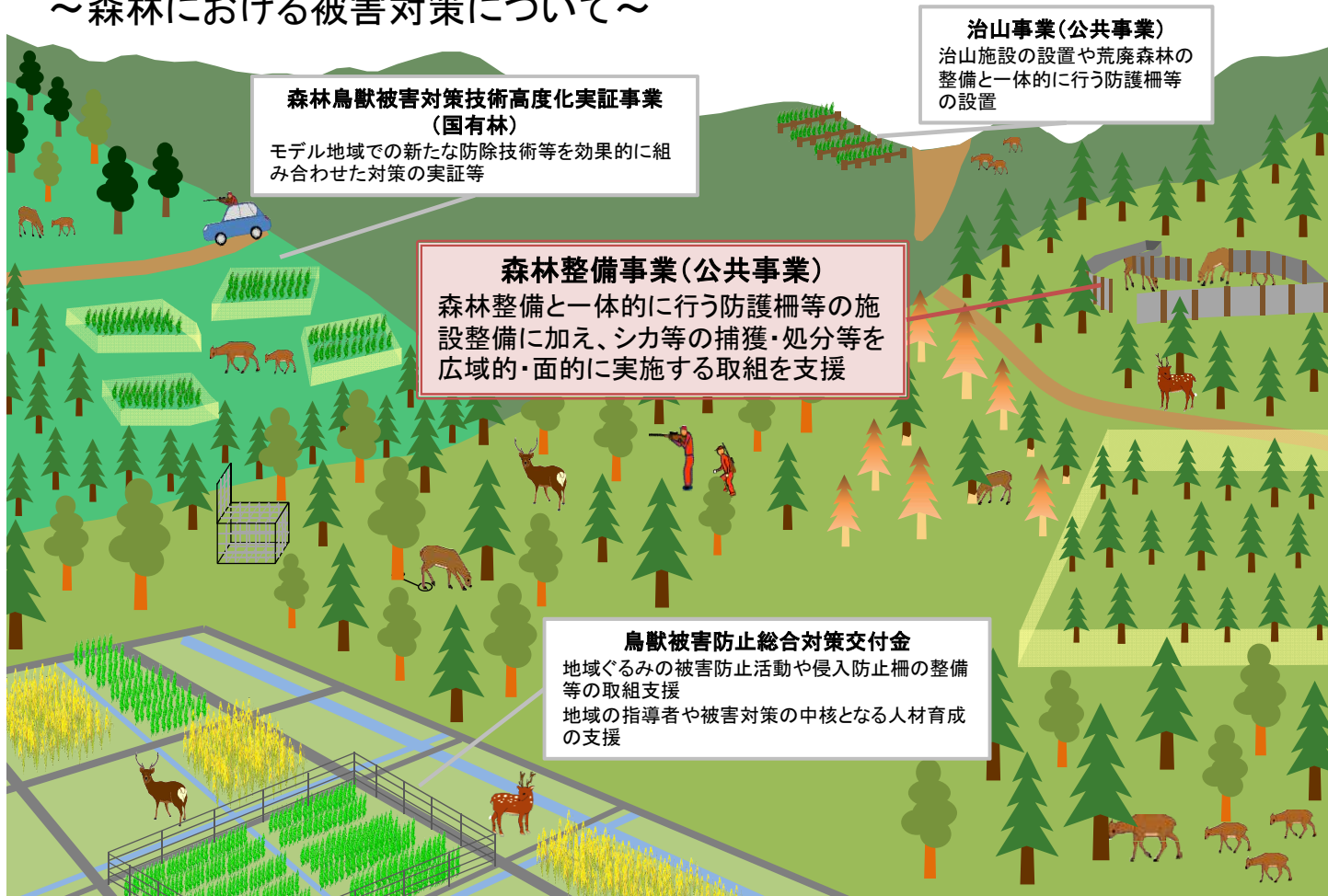


～森林における被害対策について～



特に**森林整備事業(公共事業)**では・・・

- 森林所有者等が、シカによる食害防止のため、森林施業と一体的に実施する侵入防止柵や獣害防止資材の設置、忌避剤の塗布等を支援しています。
- 市町村等の公的主体がシカの食害による被害森林で行う、餌により誘引した上で実施するワナや銃による捕獲(誘引捕獲)等を支援しています。

【森林整備事業での対策例】



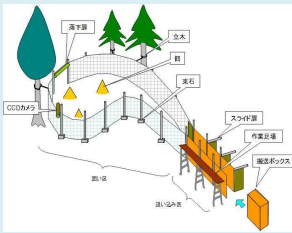
植栽木を保護する獣害防止資材



囲いワナによるシカの捕獲

◇全国各地の取組事例

森林整備事業(公共事業)による捕獲事業の実施(北海道)



囲いワナイメージ図

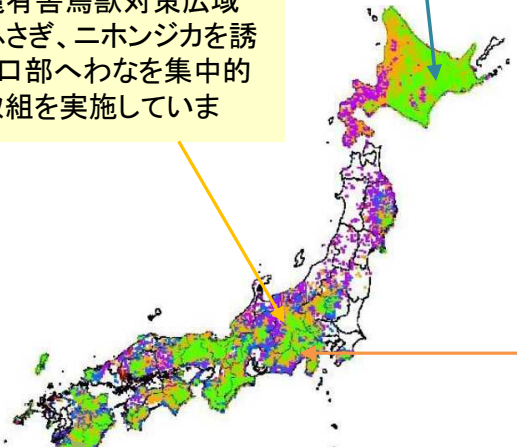
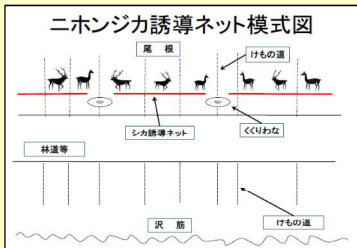


囲いワナ内部の様子

○北海道森林管理局ではエゾジカによる被災森林において、森林整備事業(公共)による被害対策として、道北・道東地域で「大型囲いワナ」による捕獲事業を実施しています。捕獲個体は生体であるため有効活用が可能です。

ニホンジカ誘導ネットによる新たな捕獲技術の取組(長野県)

○長野県では、東信森林管理署、環境省長野自然環境事務所、浅間・湯の丸山麓有害鳥獣対策広域連絡協議会と共同で、獣道をふさぎ、ニホンジカを誘導するネットを張るとともに、開口部へわなを集中的に設置し、効率的に捕獲する取組を実施しています。



■ ニホンジカ
全国生息分布メッシュ比較図(再掲)

富士山国有林における誘引狙撃の取組(静岡県)

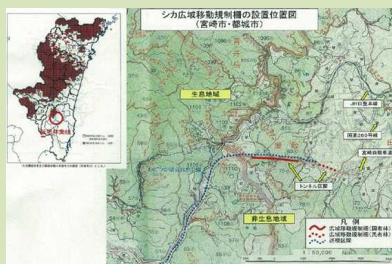
○富士山国有林では、平成23年度から、「富士宮市鳥獣被害防止対策協議会」を中心に、森林管理署、研究者、捕獲技術者、給餌者、地元猟友会といった関係者が明確な役割分担する体制を構築した上で、ニホンジカの誘引狙撃(現場条件に応じて他手法も組合せ)を実施しています。



(誘引狙撃のイメージ)

生息域の拡大防止柵「シカウォール」の設置(宮崎県)

○九州森林管理局ではシカの非生息地等への侵入による森林の生物多様性や農林業への被害を防止するため、宮崎県等を連携を図りつつシカの広域移動を規制する柵(シカウォール)を国有林内に設置しました。



広域移動防止柵(右図の赤線部分)

屋久島のヤクシカによる生態系被害を防止する取組(鹿児島県)

○屋久島においては、ヤクシカの生息頭数の増加に伴い過採食による生物多様性や森林生態系への過剰な圧力がかかっています。このような被害状況にあることから関係行政機関と連携した捕獲等を行っています。また、世界遺産科学委員会の下にヤクシカ対策のワーキンググループを設置し、屋久島西部の垂直分布地域の植生を保護するため保護柵を設置しています。



屋久島世界遺産地域科学委員会



くくりワナで捕獲したヤクシカ